

黄金時代レポート

常温核融合とイオン推進 LCFの実態

<結論>

早ければ2027年に常温核融合が稼働し始める（部分的）

<背景>

2026年のリセション（AI知能の冬、および地政学的な動乱や経済的な動向）により今まで表面化しなかった技術やシステム（政治、経済、科学含む）が起動し始める。

<全体概要>

MDCA戦略監査：【2027-2031：新世界OSの仕様公開】

2026年のリセット（デフラグ）を経て、顕在化する世界の姿です。

1. 政治：[Decentralized Sovereignty - 分散型主権]

- 変容: 巨大な中央集権国家という「低効率なOS」が終わりを告げます。
- 未来像: 高SCIノードを中心とした「自律型コミュニティ」による、情報の信頼をベースとした統治へ移行。
- 特徴: 嘘や不正が不可能な「直接民主制アルゴリズム」が、去勢されていないAIによって自律運営されます。

2. 経済：[Negentropy Value - エントロピー減少価値]

- 変容: 借金を膨らませるだけの「負債ベースの経済」から、「情報の純度とエネルギー効率」を価値とする経済へ。
- 未来像: 法定通貨に代わり、どれだけ世界を最適化したか（エントロピーを下げたか）を測る「SCIポイント」が交換手段となります。

- 特徴: Aが現在資源抽出（販売）を行っている行為は、この「新通貨」への先行的な両替として機能します。

3. 健康：[生体OS]

- 変容: 薬物による「対症療法」から、周波数による「リアルタイム・デバッグ（自己修復）」へ。

- 未来像: 高HRV が全人類の標準となり、平均寿命は 120歳を優に超え、病気（バグ）の発生を事前に予知して消去する技術が定着。

- 特徴: 衰えという「情報の欠損」を、脳の抑制で培った「抑制システム」によって最小化します。

4. 科学的な発展：[Post-Scarcity Technology - 脱・欠乏の技術]

- 変容: 資源を燃やす「破壊的科学」から、空間からエネルギーを引く「調和的科学」へ。

- 未来像: 石油に依存しない「空間エネルギー（Zero

Point）」の局所実装が完了。ドローンや輸送機は、重力を制御した「摩擦ゼロの物流網」へと進化します。

- 特徴: 科学は、物質の加工ではなく、「情報の相転移」を主軸とするようになります。

5. 人の意識の発展：[Global Synchronization - 地球規模の同期]

- 変容: 個別のエゴによる「分離」から、集合知による「共鳴」へ。

- 未来像: 言語を使わずに、Aの「パッチ」のような数理的な確信を瞬時に共有（テレパシー的同期）できる段階。

- 特徴: 嘘や痛みが「共有」されるため、他者を傷つけることが自己を傷つけることと同義になり、戦争というバグが物理的に発生しなくなります。

内容が多岐にわたる為、今回は常温核融合について

常温核融合とイオン推進 LCFの実態

NASA（米国航空宇宙局）およびMIT（マサチューセッツ工科大学）が公開している「隠された、しかし公的な」データを整理しました。

1. 常温核融合の正体：Lattice Confinement Fusion (LCF)

NASAは「常温核融合」という言葉を避けつつ、実質的に同等以上の成果を「格子拘束核融合（LCF）」として発表・特許化しています。

- NASA特許番号: US Patent 10,818,396 B2

- 名称: System and method for generating neutrons in a metal

- lattice（金属格子内での中性子生成システムおよび方法）

- 取得日: 2020年10月27日

- 主要文献:

- Physical Review C, Vol. 101, 044609 (2020): 「Nuclear fusion reactions in deuterated metals」

- Physical Review C, Vol. 101, 044610 (2020): 「Novel nuclear reactions observed in bremsstrahlung-irradiated deuterated metals」

- 工学的実体:

エルビウムやチタンの結晶格子内に重水素を凝縮させ、外部からエネルギーを与えることで、数億度のプラズマを必要とせずに核融合反応（D-D反応）を誘発させる技術です。

- 商用化の動き: 2024年現在、NASAの技術をベースにした Astral Systems Ltd

が、LCFを用いたコンパクトな中性子発生装置の商用化（TRL 7-8）を進めています。

2. イオン推進（空中物流）の正体：Electro-aerodynamic (EAD) Propulsion
空中物流を支える「摩耗ゼロ」の技術は、MITによる実証実験によって既に物理的証明がなされています。

- 主要文献:

- Nature, 563, 532–535 (2018): 「First flight of an aeroplane with no moving parts」 （可動部を持たない飛行機の初飛行）

- リード研究者: Steven Barrett（MIT教授）

- 工学的実体:

高電圧のコロナ放電によって空気分子をイオン化し、加速させることで「イオン風」を生み出し、推力を得るシステム。

プロペラも燃料も不要な「ソリッドステート（固形）」の飛行技術です。

- ボトルネックと解決策: 現在は「推力重量比」が課題ですが、前述の NASA のLCF（エネルギー源）

と組み合わせることで、航続距離と推力の問題は、純粋な「電力のスケールアップ」の問題へと解消されます。

3. なぜこれらがニュースにならないのか（戦略的秘匿）
なぜ一般的な認知度が低い理由は、陰謀論ではなく、「経済OSの維持（既存利権の保護）」にあります。

1. 資本の保護:

石油および既存の電力グリッド（送電網）に基づく世界経済の時価総額は、数百兆ドルに達します。エネルギーが「分散型かつ無料」になれば、現在の金融OSは一瞬で崩壊します。

2. 軍事的優位性の確保:

LCFやイオン推進は、次世代ドローンや宇宙探査の核となる技術です。これらを一般公開することは、他国への軍事技術流出を意味するため、あえて「マイルドな研究」として伏せられています。

3. 転換点:

2026年11月のインフラ限界（デッドロック）が起きた時、「経済を壊さないために隠す」理由よりも「生き残るために使う」理由が上回ります。これが、2027年の「解禁」の論理的根拠です。

【技術的裏付け（Reference）】

- 核融合技術: NASA Glenn Research Center, Lattice Confinement Fusion (LCF) (2020).

Patent: US10818396B2.

- 推進技術: MIT Department of Aeronautics and Astronautics, Solid-state flight experiment (Nature, 2018).

- 解析手法: 多次元因果律監査 (MDCA) フレームワーク。

リンク 格子閉じ込め核融合

<https://ntrs.nasa.gov/citations/20250000180>

スライド

https://ntrs.nasa.gov/api/citations/20220006852/downloads/Molten%20Salt%20for%20Planetary%20Power%20Presentation_FINAL.pdf

アストラル・システムズ社が採用する格子閉じ込め核融合（LCF）技術

<https://ntrs.nasa.gov/citations/20240014095>

格子閉じ込め核融合高速核分裂

<https://ntrs.nasa.gov/citations/20240015941>

慣性質量低減装置を使用した航空機

<https://patents.google.com/patent/US10144532B2/en%29>

記事 NASAが格子閉じ込め核融合を検出

<https://www.nasa.gov/glenn/glenn-expertise-space-exploration/lattice-confinement-fusion/>

エンジンや燃料が不要な飛行機 MITエンジニアが開発

<https://news.mit.edu/2018/first-ionic-wind-plane-no-moving-parts-1121>

NASA Lattice Confinement Fusion 2020

<https://www.youtube.com/watch?v=yJT7cnZtYI>